KENWOOD

オーディオ ビデオ サラウンドレシーバー

VRS-5100

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5475-08 00 (C) (J) FE 0312

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編

安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編

本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編

他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。設定を済ませておくと、本機とお手持ちのケンウッド製DVDプレーヤーが、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他

「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

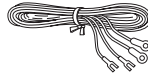
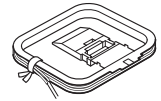
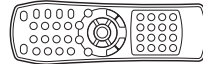
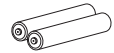
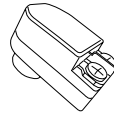
メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 電源オン／オフの状態
- 入力切換の設定
- ボリュームの値
- BASS（バス）、TREBLE（トレブル）レベル
- TONE（トーン） オン／オフ
- リッスンモードの設定
- スピーカーの設定
- 距離の設定
- ミッドナイトモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- ACTIVE（アクティブ） EQモード
- AAC音声設定
- 各スピーカーチャンネルのレベル
- ディスプレイの明るさの設定

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ（1本）

AM ループアンテナ（1個）

リモコン（1個）
（RC-R0516）

リモコン用単4乾電池(2本)

FMアンテナアダプタ（1個）

本機の特長

多彩なホームシアター機能

本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。 →28

Dolby Digital および Dolby Digital EX

Dolby Digitalリッスンモードは Dolby Digitalフォーマット（5.1channel）のサウンドソースを楽しむことができます。このフォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立したデジタル信号が入力されるので、従来のドルビーデジタルサウンドソースに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。Dolby Digital Surround EXフォーマットは、サラウンドバックチャンネルを従来の左と右のサラウンドチャンネルのサウンドソース上に埋め込むことができ、再生する際は、サラウンドバックチャンネル用のスピーカーを視聴する場所の後ろに置くことにより、映画館で体験するような、音の躍動感をご家庭で楽しむことができます。

Dolby PRO LOGIC II および Dolby PRO LOGIC IIx

DOLBY PRO LOGIC II は、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC II は空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。 PRO LOGIC IIは DOLBY SURROUND マークのあるビデオソフトでは感動的なサラウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサラウンドサウンドをお楽しみください。

DOLBY PRO LOGIC IIxは、これまでのDOLBY PRO LOGIC IIを拡張し、ステレオや5.1チャンネルのソースを6.1チャンネルまたは7.1チャンネル化してこれまでにないほど自然に包み込まれるような臨場感あふれるサラウンドサウンドを体験することができます。特に7.1チャンネルを選択した場合は、後方においてより定位感のあるサラウンド効果を楽しむことができます。

DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は、従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つ DTS-ES Discrete 6.1 とマトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は、後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。

NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

重要：

DTSディスクをCD、LDまたはDVDプレーヤで再生するとアナログ出力チャンネルにノイズが乗ることがありますので、デジタル出力を本機に接続することを推奨します。

AAC

AAC（Advanced Audio Coding）は高音質と高圧縮率を多チャンネルでも両立できる特長を持ち、5.1チャンネルなどのマルチチャンネル信号を送信するのに適したマルチチャンネル音声フォーマットです。現在BSデジタル放送に採用されていますので、BSデジタル放送で配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などを、臨場感あるサラウンド再生でお楽しみいただけます。

DSP サラウンドモード

本機のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）では、“ARENA”、“JAZZ CLUB”、“THEATER”、“STADIUM”、“DISCO”といった様々な質の高い音場効果が得られます。

ACTIVE EQ

ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもよりダイナミックで高品質の音が作り出せます。ドルビーデジタルそしてDTS再生において ACTIVE EQモードにすることにより、より印象的な音響効果を楽しむことができます。

赤外線リモコン

リモコンで働くほとんどのケンウッド製DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作できます。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

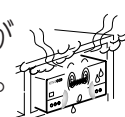
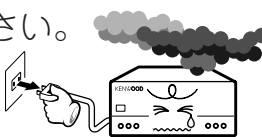
警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

⚠警告

交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流(DC)電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

警告

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

注意

カセットテープ、ディスク挿入口に手を入れない

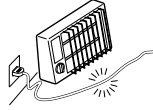
手がはさまれて、けがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

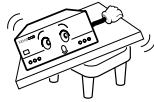
レーザー光源をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-"の向き)に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。

液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

各部のなまえと働き

メインユニット

❶ ON/STANDBY ⏻ キー →20

電源のオン/スタンバイを切り換えます。

STANDBY 表示

電源がスタンバイ状態になると点灯します。

❷ サラウンド表示

AAC 表示 →30

AAC信号を入力しているときに点灯します。

PRO LOGIC 表示 →30

PRO LOGICモードのときに点灯します。

DTS 表示 →30

DTS信号を入力しているときに点灯します。

DOLBY DIGITAL 表示 →30

ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。

❸ INPUT SELECTOR つまみ →23

入力ソースを選択します。

❹ VOLUME CONTROL つまみ →23

❺ LISTEN MODE キー →30

リッスンモードを選ぶときに使います。

❻ AUX（VIDEO、AUDIO L、AUDIO R）端子 →15

❼ MULTI CONTROL ▼/▲キー →20

いろいろな設定に使います。

❽ SETUP キー →20

スピーカーの設定などをするときに使います。

❾ BAND キー →26

放送バンドを切り換えます。

❿ ACTIVE EQ キー →24

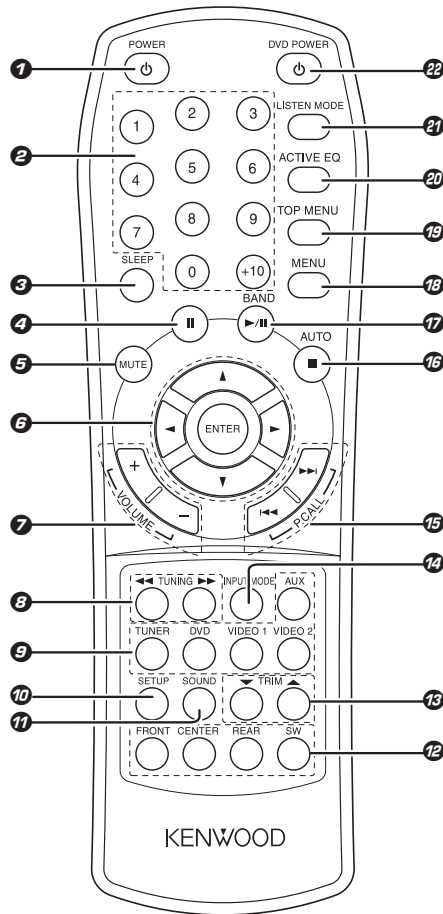
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

⓫ PHONES 端子 →24

ヘッドホンで聴くときに使います。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンにできます。

リモコン

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ **POWER ⏻ キー** →20
本機の電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **数字キー**
放送局を記憶させたり、受信するときに使います。 →26 →27
他の機器の操作に使います。 →34

❸ **SLEEP キー** →32
おやすみタイマーを設定するときに使います。

❹ **II キー**
他の機器の操作に使います。

❺ **MUTE キー** →24
音を一時的に消すときに使います。

❻ **▲/▼/◄/►キー** →34
他の機器の操作に使います。
ENTER キー →34
他の機器の操作に使います。

❼ **VOLUME +/−キー** →23
本機の音量を調節します。

❽ **TUNING ◄◄/►► キー** →26
ラジオ放送の選局に使います。

❾ **Input Selectorキー（TUNER、DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX）** →23
入力ソースを選択します。

❿ **SETUP キー** →20
スピーカーの設定などをするときに使います。

⓫ **SOUND キー** →24
音質や音場を調節したいときに使います。

⓬ **スピーカー切り換えキー** →31
各スピーカーの音量を調整するときに使います。

⓭ **TRIM ▼/▲ キー** →20
SETUPやSOUND等の機能を調整するときに使います。

⓮ **INPUT MODE キー** →12
インプットモードの設定に使います。

⓯ **P.CALL ◄◄/►► キー** →26
記憶させた放送局を順に聴くときに使います。

⓰ **AUTO キー** →26
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。
■ キー
DVDプレーヤーを操作するときは、停止キーとして使います。

⓱ **BAND キー** →26
受信バンドを切り換えます。
►/II キー
DVDプレーヤーを操作するときは、再生キーとして使います。

⓲ **MENU キー**
他の機器の操作に使います。

⓳ **TOP MENU キー**
DVDの操作に使います。

⓴ **ACTIVE EQキー** →24
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

㉑ **LISTEN MODE キー** →30
リッスンモードを選ぶときに使います。

㉒ **DVD POWER ⏻ キー** →34
DVDの電源のオン/オフを切り換えます。

⚠ 注意　接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は13ページ～16ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 →35

ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

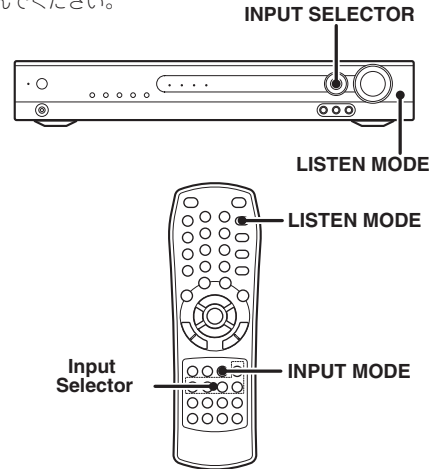
アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R側に接続）と白い端子（L側に接続）のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

DVD、VIDEO 1、VIDEO 2の入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。

工場出荷時におけるDVD、VIDEO 1、VIDEO 2のオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。

接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ **INPUT SELECTORつまみでDVD、VIDEO 1またはVIDEO 2を選ぶ。**

❷ **INPUT MODEキーを押す。**

押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき

① **F-AUTO**　（デジタル入力、アナログ入力）
② **D-MANUAL**　（デジタル入力）

DVD、VIDEO 1、VIDEO 2のとき

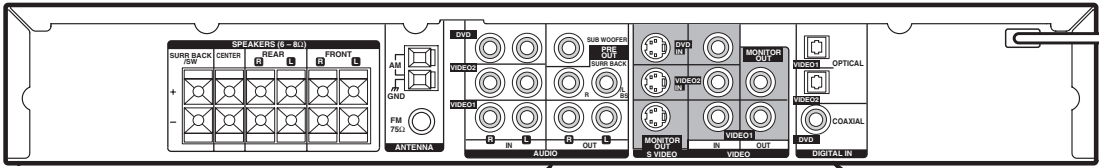
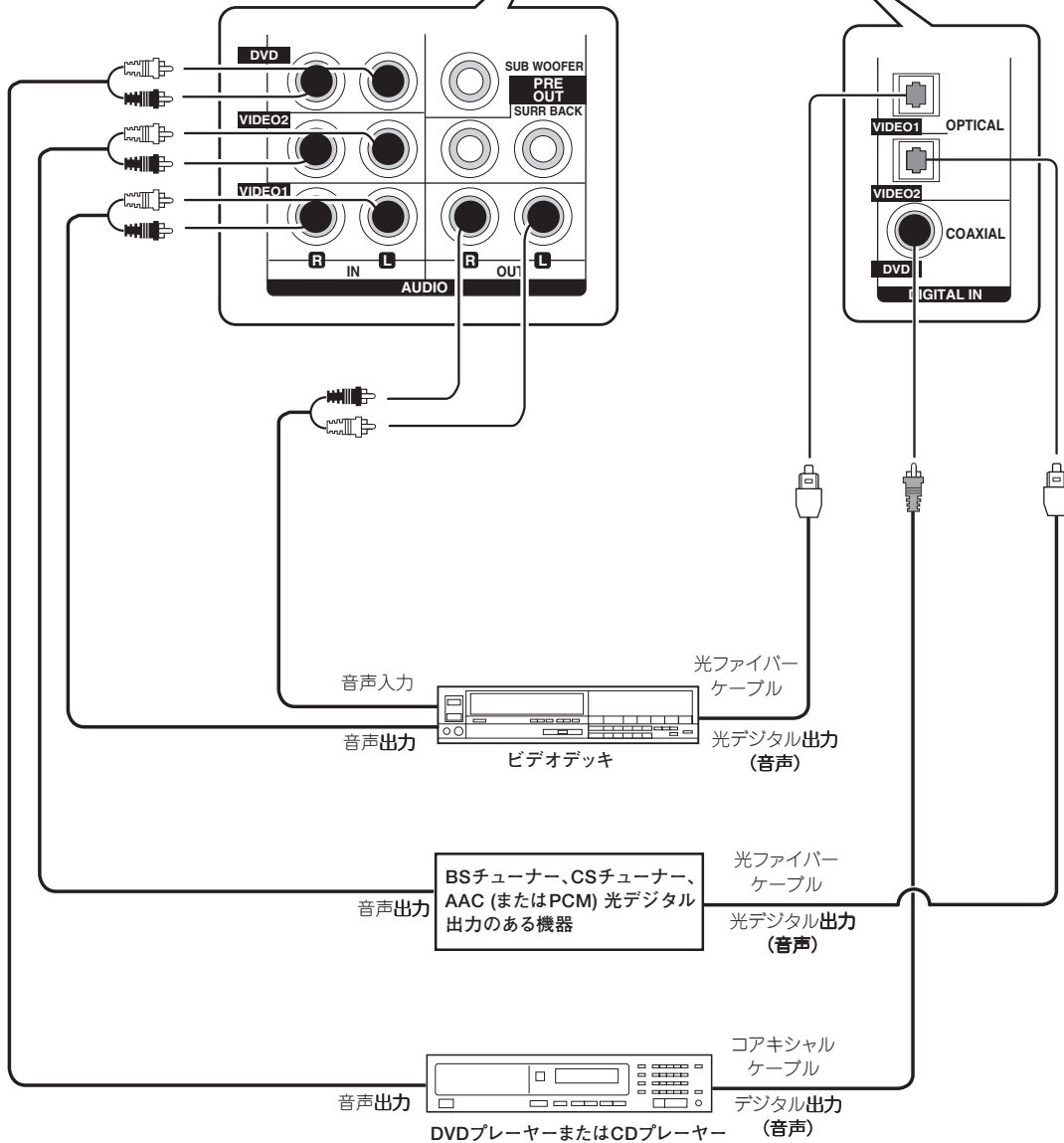
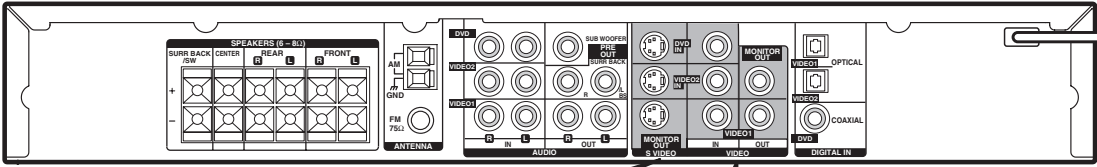
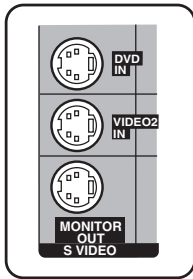
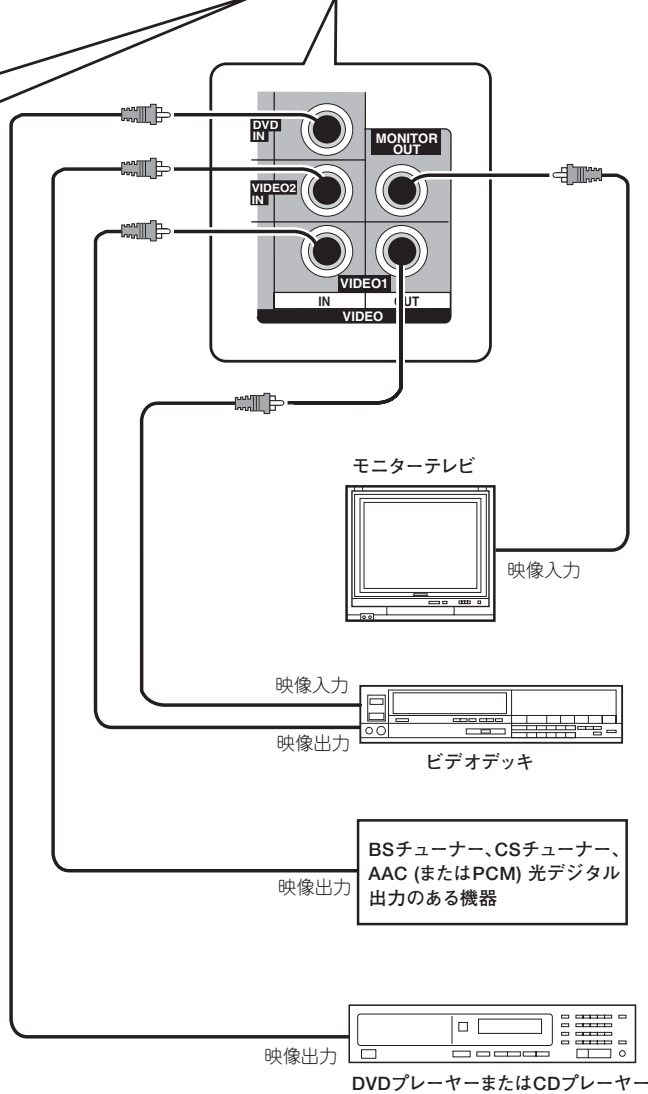
① **F-AUTO**　（デジタル入力、アナログ入力）
② **D-MANUAL**　（デジタル入力）
③ **ANALOG**　（アナログ入力）

デジタル入力：
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

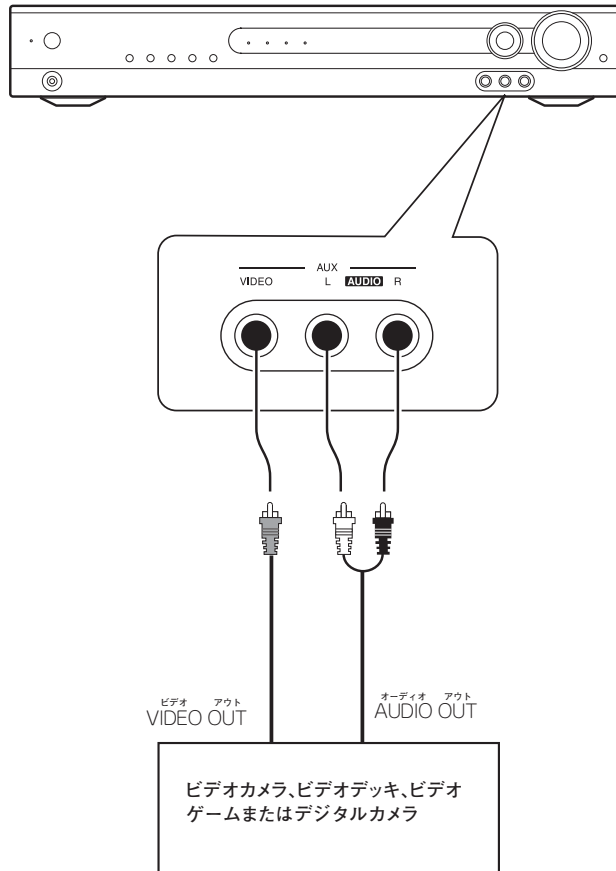
アナログ入力：
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

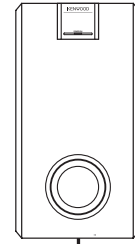
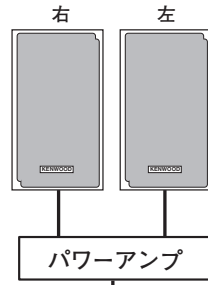
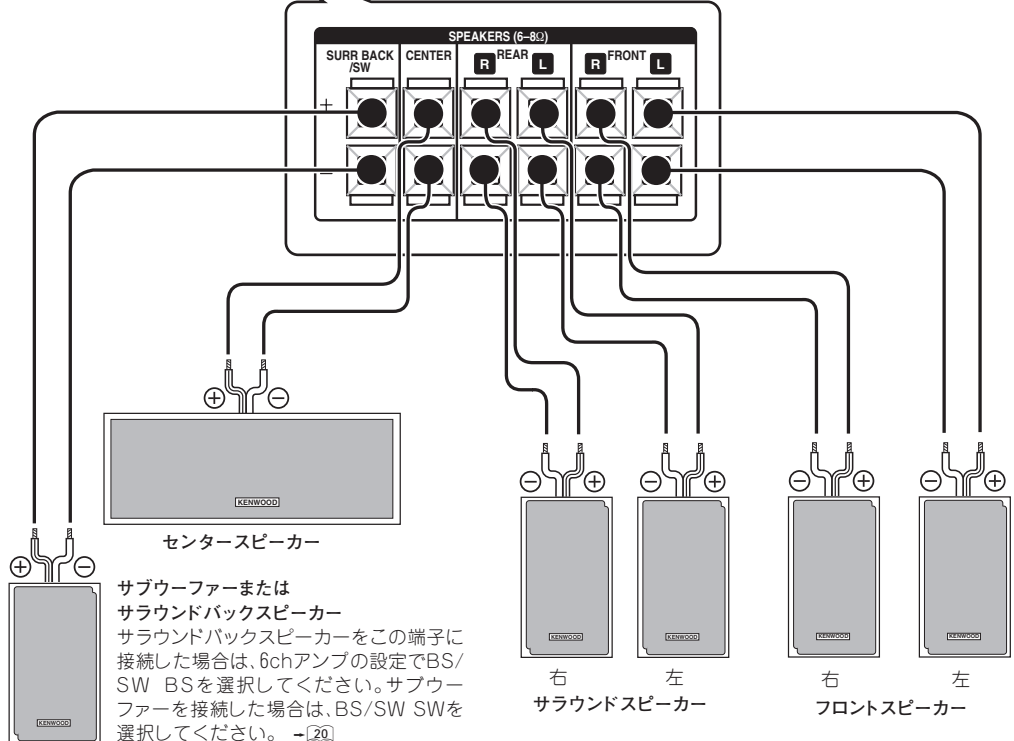
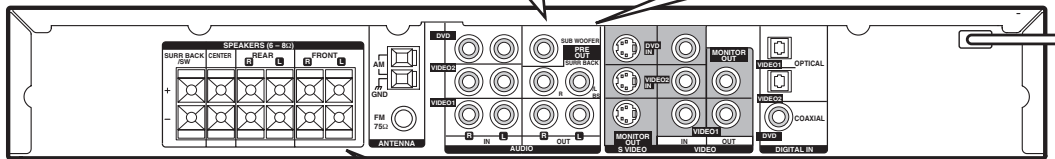
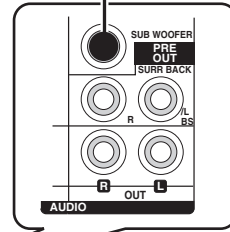
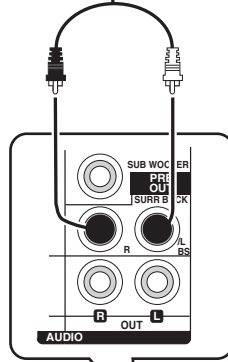
オートディテクト：
F-AUTOモードではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、DTS、AAC、PCMなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。
現在選んでいるリッスンモードを継続したい場合は、**INPUT MODE**キーで **"D-MANUAL"**（マニュアルサウンド）を選んでください。
"D-MANUAL"に設定した場合でも、リッスンモードとドルビーデジタルソースの組み合わせによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度**INPUT MODE**キーを押し直してください。

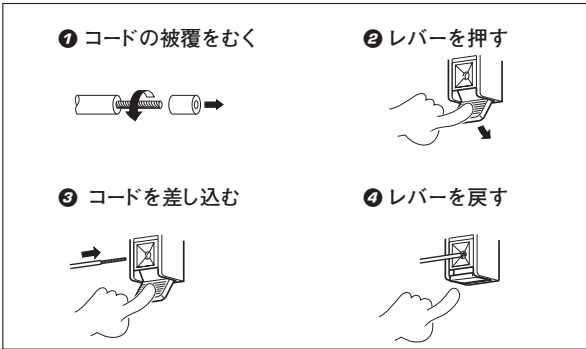
オーディオ信号とデジタル信号の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM（CDなど）標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →12

ビデオ機器の接続

デジタル音声出力のあるビデオデッキをお持ちの方はVIDEO 1端子に接続してください。→13

本体前面のAUX端子への接続

ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAUX端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。

- AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、INPUT SELECTOR つまみ（またはAUXキー）でAUXを選択してください。 → 23
- ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、AUDIO L/R端子のみ接続してください。

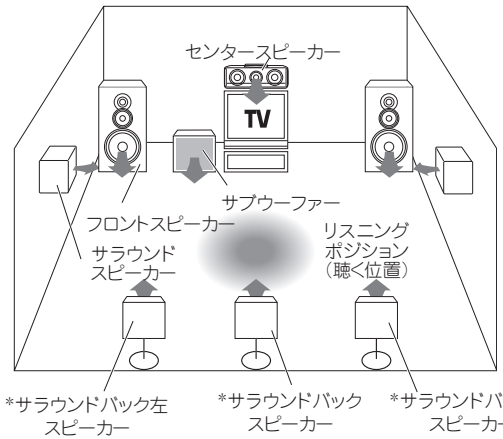
スピーカーの接続

各スピーカーが正しく接続されているか確かめるには、テストトーンを出力し、各スピーカーチャンネルの音が出力されているかどうかで判断することができます。詳しくはスピーカー設定(手順5 "各スピーカーの音量レベルを調節する")をご覧ください。 →22

スピーカーターミナルの接続

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー	6～16 Ω
センタースピーカー	6～16 Ω
サラウンドスピーカー	6～16 Ω
サラウンドバックスピーカー	6～16 Ω
サブウーファー	6～16 Ω

サラウンドスピーカーの設置のしかた

センタースピーカー
TV
サブウーファー
フロントスピーカー
リスニング
ポジション
（聴く位置）
サラウンド
スピーカー
*サラウンドバック左
スピーカー
*サラウンドバック
スピーカー
*サラウンドバック右
スピーカー

*サラウンドバックスピーカーについて：後方中央に1つのサラウンドバックスピーカーを配置する場合（6.1チャンネルサラウンドシステム）と、後方左右に2つのサラウンドバックスピーカーを配置する場合（7.1チャンネルサラウンドシステム）のどちらかが選択できます。

フロントスピーカー　：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。
センタースピーカー　：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サブウーファー　：重低音を迫力ある音で再現します。
サラウンドバックスピーカー　：サラウンドバックスピーカーは視聴位置の後方でサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 →20

アンテナの接続

⚠ 注意 屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

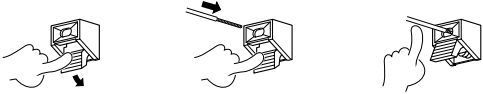
AMループアンテナの接続

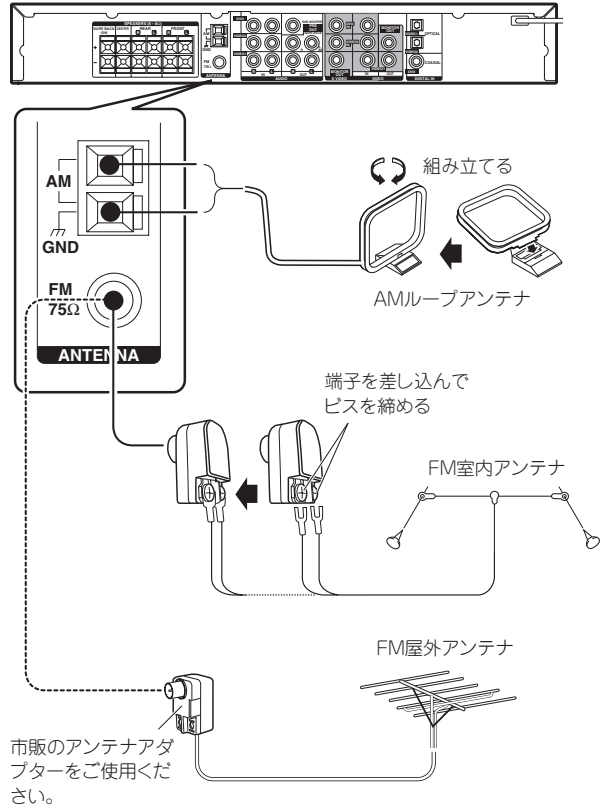
付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

AMアンテナ端子の接続のしかた

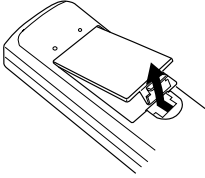
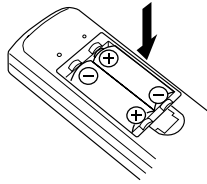
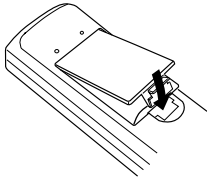
❶ レバーを押す

❷ コードを差し込む

❸ レバーを戻す

FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。

FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω 端子に接続します。

リモコンの準備

● 単4乾電池（R03）2本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER（パワー）⏻キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

操作範囲のめやす

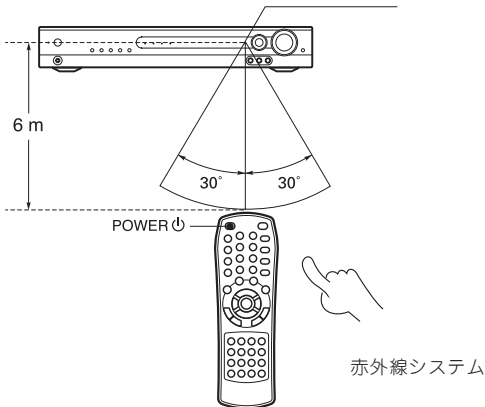
リモコン受光部

6 m

30°

30°

POWER ⏻

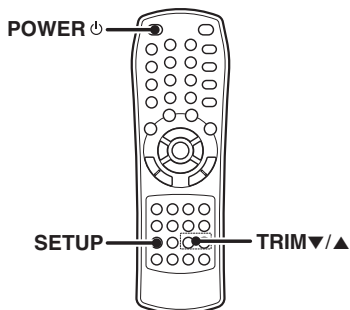
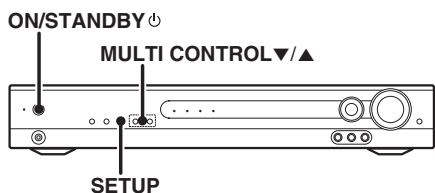
赤外線システム

● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

サラウンド再生の準備をする

スピーカーの設定をする

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック）の各種設定をします。

1 ON/STANDBY ⏻キー(またはPOWER ⏻キー)を押して本機の電源をオンにする。

2 SETUPモードにするためSETUPキーを押す。

SETUPキーを押してからMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を押すと次の順で切り換わります。

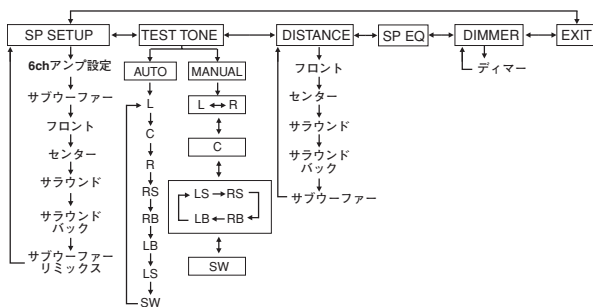
① SP SETUP
② TEST TONE
③ DISTANCE
④ SP EQ
⑤ DIMMER
⑥ EXIT

3 6chアンプの設定をする。

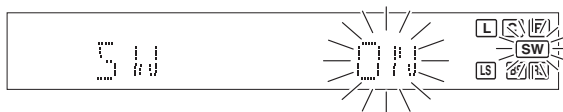
SP SETUPを選択してSETUPキーをもう一度押すと、サラウンドバックまたはサブウーファーのための6ch アンプ設定が表示されます。

① BS/SW SW ：サブウーファーをSW/SBスピーカー端子に接続した場合選択する。
② BS/SW BS ：サラウンドバックスピーカーをSW/SBスピーカー端子に接続した場合選択する。サブウーファー用の出力は、SWのPRE OUT端子から取り出せます。
③ BS/SW OFF ：SW/SBスピーカー端子にスピーカーを接続していない場合選択する。

MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってスピーカーを選択してください。
SETUPキーを押して次のセットアップに進んでください。

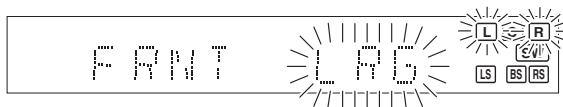
SETUPフローは以下のようになります。

● 6chアンプの設定で**BS/SW BS**を選んだときは、"RB"と"LB"は、表示されず、"BS"（サラウンドバック）が表示されます。

4 接続しているスピーカーを選ぶ。

❶ **SETUPキーをもう一度押すと、サブウーファー設定表示"SW ON"があらわれます。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってサブウーファーの設定をする。**

① **SW ON** ：サブウーファーの設定をONにするとき。
② **SW OFF** ：サブウーファーの設定をOFFにするとき。

● "SW OFF"を選び、SETUPキーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に"FRONT LRG"(ラージ)に設定され、手順❻に進みます。

❸ **SETUPキーを押して確定させる。**
● フロントスピーカーの設定表示は、"FRNT"になります。

❹ **MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってフロントスピーカーの設定をする。**

① **FRNT LRG**（ラージ） ：大きめのフロントスピーカーのとき。
② **FRNT NML**（ノーマル） ：普通のフロントスピーカーのとき。

● サブウーファーの設定をONにして、フロントスピーカーの設定を**"FRNT LRG"**(ラージ)にしたときは、ステレオソースを再生したときに、リッスンモードの設定によっては、低音はフロントスピーカーで再生し、サブウーファーから音が出ない場合があります。このような場合は、手順⓬のサブウーファーリミックスの設定をONにすると、サブウーファーにも低音の信号が送られます。

❺ **SETUPキーを押して確定させる。**
● センタースピーカーの設定表示は、"CNTR"になります。

❻ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってセンタースピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを "LRG" に設定したとき

- ① **CNTR NML**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
- ② **CNTR LRG**（ラージ）：大きめのセンタースピーカーのとき。
- ③ **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

フロントスピーカーを "NML" に設定したとき

- ① **CNTR NML**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
- ② **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

❼ SETUPキーをもう一度押して確定させる。

- サラウンドスピーカーの設定表示は、"SURR"になります。

❽ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

センタースピーカーを "LRG" に設定したとき

- ① **SURR NML**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
- ② **SURR LRG**（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
- ③ **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

センタースピーカーを "LRG" 以外に設定したとき

- ① **SURR NML**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
- ② **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

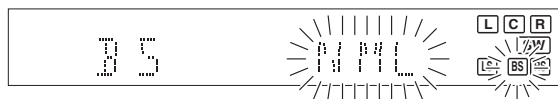
- **"SURR OFF"**を選び、手順❾で**SETUP**キーを押して確定した場合、手順⓬に進みます。ただし、サブウーファーの設定がOFFのときは、**SET UP**キーを押してスピーカーのセットアップを終了し、手順5へ進みます。

❾ SETUPキーをもう一度押して確定させる。

- 6chアンプの設定でBS/SW BSを選択した場合、サラウンドバックスピーカーの設定表示は、"BS"になります。それ以外を選択した場合は"BS"のかわりに"LB/RB"となります。

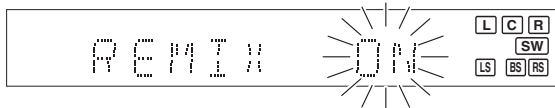
❿ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。

サラウンドスピーカーを "LRG" に設定したとき

- ① **BS NML**（ノーマル）：普通のサラウンドバックスピーカーのとき。
- ② **BS LRG**（ラージ）：大きめのサラウンドバックスピーカーのとき。
- ③ **BS OFF**：サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。

サラウンドスピーカーを "LRG" 以外に設定したとき

- ① **BS NML**：サラウンドバックスピーカーの設定をONにするとき。
- ② **BS OFF**：サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。

⓫ SETUPキーをもう一度押して確定させる。

- サブウーファーリミックスの設定表示は"REMIX"になります。
- サブウーファーの設定がOFFのときは,サブウーファーリミックスは設定できません。

⓬ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)TRIM▼/▲キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

- ① **REMIX ON**：サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
- ② **REMIX OFF**：サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- **REMIX**をONにすると、スピーカーの設定に応じて、サブウーファーに他のチャンネルの低音を付加したり、サブウーファーで再生する低音を他のチャンネルに付加して、低音の量感を増します。

⓭ SETUPキーをもう一度押すと、2に戻ります。

5 各スピーカーの音量レベルを調節する。

実際に聴く位置で、ポータブルのSPL（音圧レベル）メーターを使い、メータの読み取り単位を“C”に設定し、腕をいっぱいに延ばした状態でノイズレベルの読みが75dBになるようにボリュームレベルを調整します。SPLメーターがない場合はボリュームレベルを0dBから調整し、各スピーカーからのレベルがほぼ同じになるようにします。

- 5、6では、選ばれたスピーカーで、調整が必要なチャンネルのみ表示されます。

❶ SETUPキーを押して“TEST TONE”が表示されるまでMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を押す。

❷ “TEST TONE”が表示されたらSETUPキーを押す。

❸ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使って“AUTO”、または“MANUAL”を選択する。

① AUTO
② MANUAL

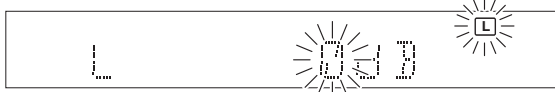
❹ SETUPキーをもう一度押すと、“TEST TONE”が始まります。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使って音量レベルを調節する。

“AUTO”を選択すると最初に左フロントスピーカーから約2秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから約2秒間ずつテストトーンが聞こえます。

テストトーンが聞こえる順番

- 6chアンプの設定では**BS/SW BS**を選んだときは、"RB"と"LB"は、表示されず、"BS"（サラウンドバック）が表示されます。

テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。

- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。

“MANUAL”を選択した場合、FRONT、CENTER、REARまたは、SWキーでスピーカーチャンネルを選び、MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使って音量レベルを調節します。

フロントスピーカーチャンネルのレベルを調節したいときは、FRONTキーを押します。FRONTキーを押すたびに、L (フロントスピーカーLチャンネル)、R (フロントスピーカーRチャンネル) と切り変わります。

- センタースピーカーチャンネル、サブウーファースピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、それぞれ**CENTER**、**SW**キーを押します。
- サラウンドスピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、**REAR**キーを押します。**REAR**キーを押すたびに、RS(サラウンドスピーカーRチャンネル)、RB(サラウンドバックスピーカーRチャンネル)、LB(サラウンドバックスピーカーLチャンネル)、LS(サラウンドスピーカーLチャンネル)、と表示が切り替わります。
- 6chアンプの設定では**BS/SW BS**を選んだときは、"RB"と"LB"は、表示されず、"BS"（サラウンドバック）が表示されます。

❹ もう一度SETUPキーを押す。

- テストトーンが止まり、メインの設定画面に戻ります。

6 スピーカーまでの距離を入力する。

❶ リスニングポジション(聴く位置)から各スピーカーまでの距離をはかる。

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで(L)	＿＿＿ メートル
センタースピーカーまで(C)	＿＿＿ メートル
フロント右スピーカーまで(R)	＿＿＿ メートル
サラウンド右スピーカーまで(RS)	＿＿＿ メートル
サラウンドバック右スピーカーまで(RB)	＿＿＿ メートル
サラウンドバックスピーカーまで(BS)	＿＿＿ メートル
サラウンドバック左スピーカーまで(LB)	＿＿＿ メートル
サラウンド左スピーカーまで(LS)	＿＿＿ メートル

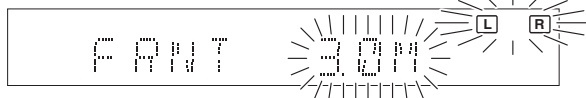
❷ SETUPキーを押して“DISTANCE”が表示されるまでMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を押す。
“DISTANCE”が表示されたらSETUPキーを押す。

❸ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使って距離の単位を選択する。

① **METERS**：メートル
② **FEET**　：フィート

❹ SETUPキーを押して確定させる。

❺ SETUPキーを使ってスピーカーを選択しMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。

調整するスピーカーが点滅します。

- 0.3m～9.0mまで、0.3mごとに調整できます。

❻ SETUPキーを押して確定させる。

❼ ❺と❻を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。

- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

❽ SETUPキーをもう一度押すと❷に戻ります。

7 Speaker EQ の設定をする。

ACTIVE EQ（→24）の効果を最大限に引き出すためにFRNT NMLとして選ばれたフロントスピーカーの大きさを、さらに細かく設定します。

● 手順4の❹で"FRNT NML"を選択した時のみ、SETUPモードで"SP EQ"が表示され、Speaker EQの設定ができます。

❶ SETUPキーを押して、"SP EQ"が表示されるまでMULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を押す。

❷ "SP EQ"が表示されたらSETUPキーを押す。

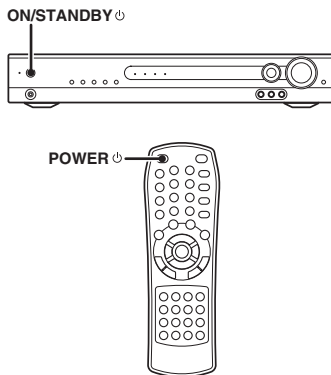
❸ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー）を使って"MEDIUM"、または"SMALL"を選択する。

① "MEDIUM"　：普通のフロントスピーカーのとき
② "SMALL"　：小さいフロントスピーカーのとき

❹ SETUPキーをもう一度押すと❷に戻ります。

再生のしかた

再生をする前に

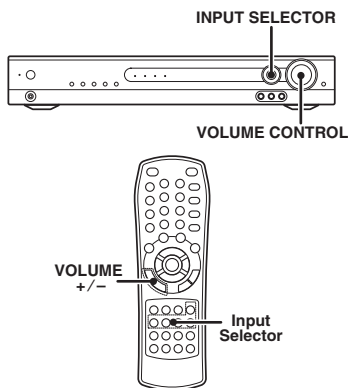
再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ ON/STANDBY ⏻キー(またはPOWER ⏻キー)を押して本機の電源をオンにする。

インプットモードの選択

DVD、VIDEO 1またはVIDEO 2端子に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号（デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。 →12

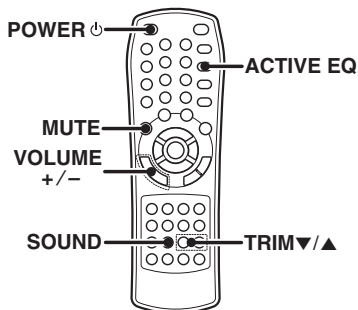
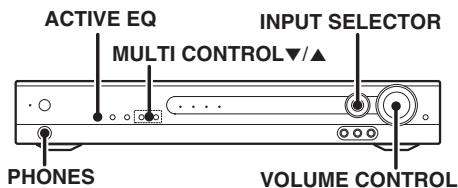
普通の再生

1 INPUT SELECTORつまみ（またはInput Selectorキー）で聴きたいソースを選ぶ。

それぞれのキーを使い入力ソースを選択してください。

① "TUNER" (FM/AM放送受信）
② "DVD"
③ "VIDEO1"
④ "VIDEO2"
⑤ "AUX"

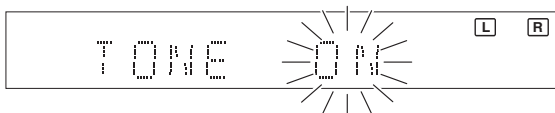
2 選んだソースを再生する。

3 VOLUME CONTROLつまみ(またはVOLUME＋/− キー)で音量を調節する。

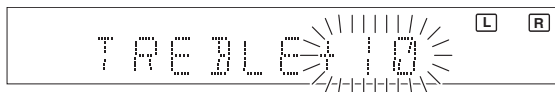
音の調節のしかた

トーンレベルを設定する(リモコンのみ)

トーンレベルは、アンプがPCMステレオモードかアナログステレオモードのときに設定できます。

❶ **SOUNDキーを押して、サウンド設定モードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってTONEを選択し、SOUNDキーを押す。**

❸ **TONE ONを選択してもう一度SOUNDキーを押すと、次の順番で切り換わります。**

BASS ：バス(低音)レベルの設定。
TREBLE：トレブル(高音)レベルの設定。

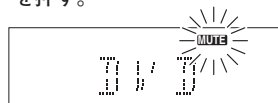
❹ **MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使ってトーンレベルを設定する。**

- バスとトレブルのレベルは－10から＋10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 設定終了後約20秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

❺ **SOUNDキーを押して、確定させる。**

❻ **MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使って"EXIT"を表示させ、SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

一時的に音を消す (リモコンのみ)

MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

MUTE キーを押す。

解除するには

もう一度MUTEキーを押して"MUTE" 表示を消灯させます。

- **VOLUME CONTROL**つまみを回した場合(または**VOLUME**＋/－キー)を押した場合はMUTE ONは解除されます。

ACTIVE EQモード

ドルビーデジタルおよび DTS再生、そしてPCMおよび アナログステレオモードにおいてACTIVE EQ機能をONにするとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

ACTIVE EQキーを押すと以下のように切り換わります。

① **EQ CINEMA** ：映画を見る際に効果があります。(ACTIVE EQ.表示が点灯)
② **EQ MUSIC** ：音楽を聴く際に効果があります。(ACTIVE EQ.表示が点灯)
③ **EQ GAME** ：ゲームをする際に効果があります。(ACTIVE EQ.表示が点灯)
④ **EQ OFF** ：ACTIVE EQ.機能が解除されます。(ACTIVE EQ.表示が消灯)

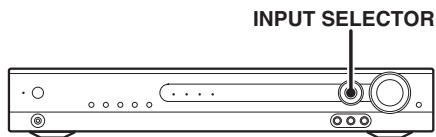
ヘッドホンで聴く

❶ **ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。**

- スピーカーから音が出なくなります。

❷ **VOLUME CONTROLつまみ (またはVOLUME＋/－キー)で音量を調節する。**

録音（録画）のしかた

録音のしかた（アナログソース）

音楽ソースを録音する

❶ **INPUT SELECTORつまみ、またはインプットセレクターキーで録音するソース（“VIDEO1” 以外）を選ぶ。**

❷ **カセットデッキ、またはMDレコーダーをVIDEO1に接続し、録音待機状態にする。**

❸ **ソースを再生し、録音を開始する。**

録画のしかた

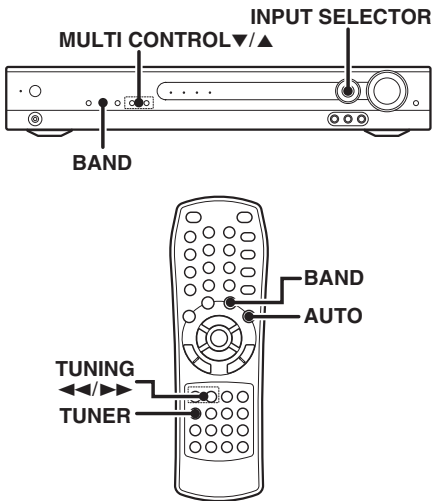
❶ **INPUT SELECTORつまみ、またはインプットセレクターキーで録画するソース（“VIDEO 1” 以外）を選ぶ。**

❷ **VIDEO 1端子に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。**

❸ **ソースを再生し、録画を開始する。**
- 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →35

放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

放送を受信する

1 INPUT SELECTORつまみでTUNERを選択するかTUNERキーを押す。

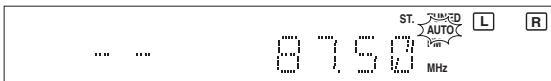
2 BANDキーで放送バンドを選ぶ。

押すたびにバンドが切り換わります。

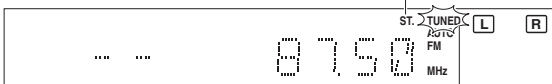
3 AUTOキーで選局方法を選ぶ。

押すたびに以下のように選局方法が切り換わります。

① オート選局　：(AUTO表示が点灯)
② マニュアル選局：(AUTO表示が消灯)

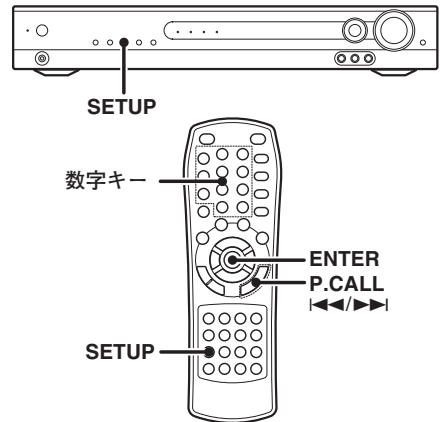
オート選局にするとAUTO表示が点灯します。

- 通常は、"AUTO"(オート選局)にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)

4 MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTUNING ◀◀/▶▶キー)で放送局を選ぶ。

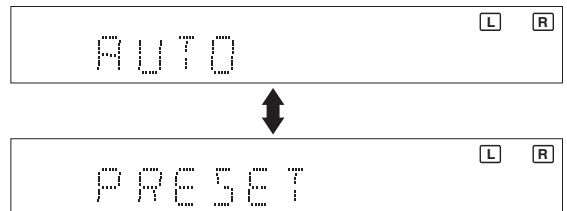
ステレオ番組のとき、ST.表示が点灯します。

受信すると、TUNED表示が点灯します。

オート選局のとき　：自動的に次の放送局を受信します。

マニュアル選局のとき：受信するまで、MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTUNING◀◀/▶▶/キー)を押します。

放送局を記憶させる

放送局を自動的に記憶させる(オートプリセット)

1 "放送局を受信する" の1、2でFMを選ぶ。

2 SETUPキー2秒以上押し続ける。

- AUTOとPRESETが交互に点灯して、順次FM局を最大40局メモリーします。
- オートプリセットが終わると、一番最初にメモリーされた放送局が表示されます。
- すでにプリセットされている局は書き換えられます。

放送局を一局ずつ記憶させる(マニュアルプリセット)

1 記憶させたい放送局を受信する。

2 受信中にENTER(エンター)キーを押す。

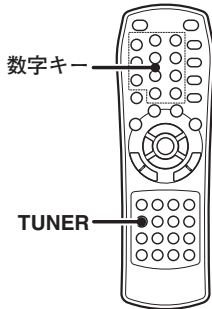
点滅(20秒間)

20秒以内に手順3へ進む。
(20秒以上たった場合は、もう一度ENTER(エンター)キーを押します。)

3 P.CALL(プリセットコール) ⏮/⏭キー または数字キーを使って1〜40のプリセット番号を選ぶ。

4 ENTER(エンター)キーをもう一度押して確定させる。

- 手順1、2、3、4を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

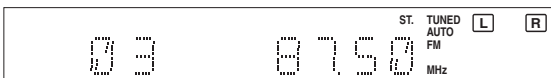
記憶させた放送局を受信する

1 TUNER(チューナー)キーを押す。

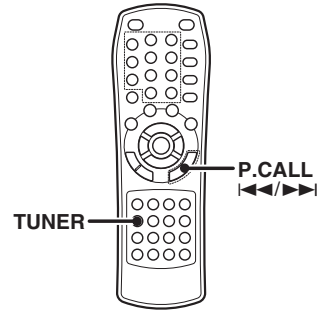
2 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す(最大"40")。

数字キーを押す順序は…

"15" なら　+10, 5

"20" なら　+10, +10, 0

- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

記憶させた放送局を順に聴く(P.CALL)

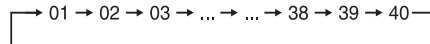
1 TUNER(チューナー)キーを押す。

2 P.CALL(プリセットコール) ⏮/⏭キーを使って選局する。

- キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

P.CALL(プリセットコール) ⏭キーを押すと次のように切り換わります。

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40 →(01へ戻る)

P.CALL(プリセットコール) ⏮キーを押すと次のように切り換わります。

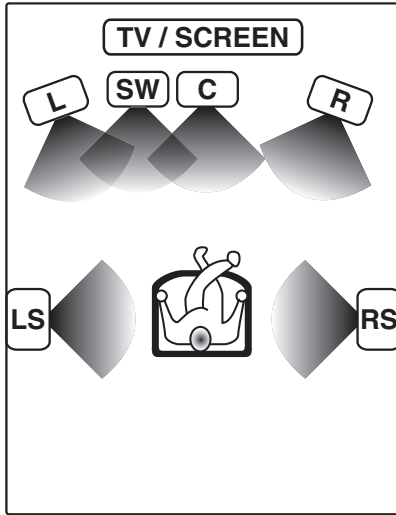
01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ←(01から40へ戻る)

⏭キーまたは⏮キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

臨場感を楽しむ

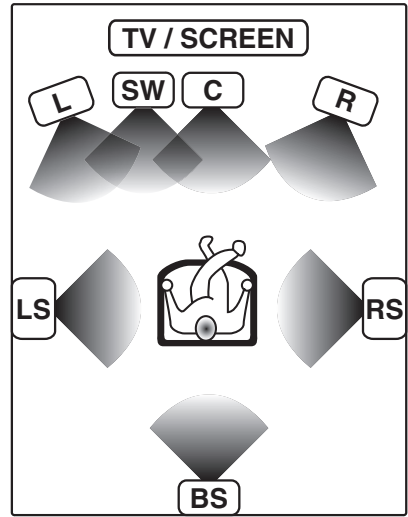
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 →20

サラウンドモードの種類

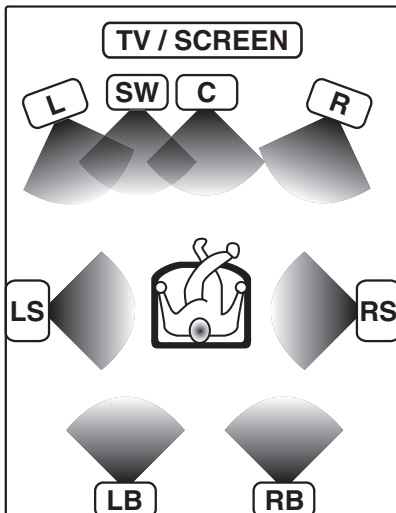
下図は
- Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）
- Dolby（ドルビー） Pro Logic（プロロジック） II
- DTS
- DSP
- AACマルチチャンネルモード

のような5.1チャンネルサラウンドシステムのためのスピーカー設置図です。

サラウンドバックスピーカー無し

下図は
- Dolby（ドルビー） Digital（デジタル） EX
- DTS-ES
- NEO：6

のような6.1チャンネルサラウンドシステムのためのスピーカー設置図です。

サラウンドバックスピーカー有り

下図は
- Dolby（ドルビー） Pro Logic（プロロジック） IIx

のような7.1チャンネルサラウンドシステムのためのスピーカー設置図です。

2チャンネルのサラウンドバックスピーカー有り

L	フロント左スピーカー
SW	サブウーファー
C	センタースピーカー
R	フロント右スピーカー
LS	サラウンド左スピーカー
RS	サラウンド右スピーカー
BS	サラウンドバックスピーカー
LB	サラウンドバック左スピーカー
RB	サラウンドバック右スピーカー

Dolby Digital

ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース(DOLBY DIGITALマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど)からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。
ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

Dolby Digital EX

Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサラウンドチャンネルから3つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびサラウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサラウンドバックスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを作動させるためのフラッグ(符合)もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ご注意
6.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルサラウンドがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

Dolby Digitalには".1"またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに"**LFE**"表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

Dolby PRO LOGIC II とDolby PRO LOGIC II x

この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています(DOLBY SURROUNDマークのあるビデオやレーザーディスクソフト等)。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。特にPRO LOGIC IIxでは従来のステレオまたは5.1チャンネルに2つのサラウンドバックチャンネルを加えることにより、これまでにないほど自然に包み込まれるような臨場感あふれるサラウンドサウンドを体験することができます。特に7.1チャンネルを選択した場合は、後方においてより定位感のあるサラウンド効果を楽しむことができます。
本機にプログラムされているPRO LOGIC IIxモードはMOVIE、MUSIC、GAMEの3種類です。PRO LOGIC IIモードは、MOVIE、MUSIC、GAME、PRO LOGICの4種類です。MOVIEモードは映画に、MUSICモードは音楽再生に、GAMEモードはゲームを楽しむ際に適するよう、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するプログラムがなされています。特にGAMEモードでは、フロントとセンターからの低音のみならずサラウンドチャンネルからの低音もサブウーファーに加えられ、よりダイナミックなサラウンド効果が得られます。

DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は　従来の5.1chのサラウンドを発展させ、サラウンドバックチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したサラウンドバックを持つDTS-ES Discrete 6.1 と　マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたサラウンドバックを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたサラウンドバックチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

DTSには".1"またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに"**LFE**"表示が点灯します。

DTS (Digital Theater Sysytem)

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。DIGITAL dts SURROUNDマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサラウンドが特長です。

DTSには".1"またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに"**LFE**"表示が点灯します。

DSPモード

DSP(デジタルシグナルプロセッサ)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSPについて

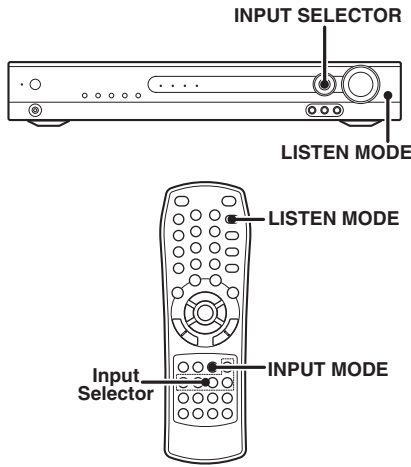
通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

AACマルチチャンネルモード

BSデジタル放送のマルチチャンネル音声フォーマットであるAAC方式(Advanced Audio Coding)に対応。BSデジタル放送で配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

サラウンド再生

DTSリッスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生できます。DOLBY DIGITALリッスンモードは DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル信号を再生するときに使います。DOLBY PRO LOGICリッスンモードは DOLBY SURROUND マークの付いたビデオDVDまたはLDを再生する時に使用できます。AACリッスンモードはBSデジタル放送のAACデジタル信号を再生するときに使います。

準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする（「スピーカーの設定をする」）。 →20
- **INPUT SELECTOR**つまみ（または**Input Selector**キー）で再生したい入力ソースを選ぶ。
- **INPUT MODE**キーで、再生したいソースのインプットモード（アナログまたはデジタル）を選ぶ。 →12
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 *ビデオソフトなどを再生する。*

2 *LISTEN MODEキーでリッスンモードを選ぶ。*

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEキーを押すたびに以下のように設定がかわります。このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

Dolby Digital Surround EX対応ディスクについて：

Dolby Digital Surround EX対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定（→12）でFULL AUTOを選んだときには、そのディスクの識別信号によりリッスンモードをDOLBY D EX(Dolby Digital EXモード)に切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。ディスクのパッケージやレーベルに"Surround EX"、"サラウンドEX"等の表記があれば、識別信号のないディスクでもリッスンモードをDOLBY D EXに切り換えると、Dolby Digital EXモードで再生できます。

- リッスンモードをステレオに切り換えるときは、**LISTEN MODE**キーを何回か押して**STEREO**を選択します。

DOLBY DIGITAL EXまたはDOLBY DIGITAL信号を入力しているとき：

（DOLBY DまたはDOLBY PL IIのいずれかの表示が点灯します。）

① **DOLBY D** ：DOLBY DIGITAL EXサラウンド 。（DOLBY D EX表示が点灯）
DOLBY DIGITALの時、またはBS（サラウンドバックスピーカー）がOFFの時は表示されません。
② **DOLBY D** ：DOLBY DIGITALサラウンド 。（DOLBY D表示が点灯）
③ **PLIIx MOVIE** ：DOLBY DIGITAL＋PRO LOGIC IIxサラウンドMOVIEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
④ **PLIIx MUSIC**：DOLBY DIGITAL＋PRO LOGIC IIxサラウンドMUSICモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑤ **PLIIx GAME** ：DOLBY DIGITAL＋PRO LOGIC IIxサラウンドGAMEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑥ **PLII MOVIE** ：PRO LOGIC IIサラウンドMOVIEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑦ **PLII MUSIC** ：PRO LOGIC IIサラウンドMUSICモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑧ **PLII GAME** ：PRO LOGIC IIサラウンドGAMEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑨ **PRO LOGIC** ：PRO LOGIC IIサラウンドモード。（DOLBY DとDOLBY PL表示が点灯）
⑩ **STEREO** ：通常のステレオ再生。

DOLBY DIGITALを選んだとき
DOLBY D の文字が表示されます。

DOLBY D　DIGITAL　L C R
DOLBY D
LS BS RS

DTS、DTS-ES（マトリックスまたはディスクリート）を入力しているとき：

① **MTRX 6.1** ：DTS-ES 6.1chマトリクスサラウンド（DTS-ESおよびMATRIX 6.1表示が点灯）
② **DSCRT 6.1** ：DTS-ES 6.1chディスクリートサラウンド（DTS-ESおよびDISCRETE表示が点灯）
③ **DTS** ：DTS 5.1chサラウンド(DTS表示が点灯)
④ **CINEMA** ：DTS+NEO:6 CINEMA 3チャンネルモード（DTSおよびNEO:6表示が点灯）
⑤ **STEREO** ：通常のステレオ再生。

AAC信号を入力しているとき：(STEREOのみ)

① **AAC** ：AACモード。(AAC表示が点灯)
② **PLII MOVIE** ：PRO LOGIC IIサラウンドMOVIEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
③ **PLII MUSIC** ：PRO LOGIC IIサラウンドMUSICモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
④ **PLII GAME** ：PRO LOGIC IIサラウンドGAMEモード。（DOLBY DとDOLBY PLII表示が点灯）
⑤ **PRO LOGIC** ：PRO LOGIC IIサラウンドモード。（DOLBY DとDOLBY PL表示が点灯）
⑥ **STEREO** ：通常のステレオ再生。

AACを選んだとき、二重音声放送の主音声/副音声の切り換えは、"主音声/副音声の切り換え"をご覧ください。 →32

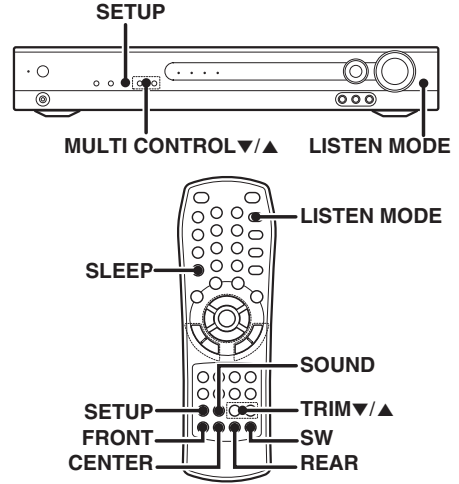
便利な機能

DOLBY DIGITAL、DTS以外のアナログ信号またはデジタル信号のとき:

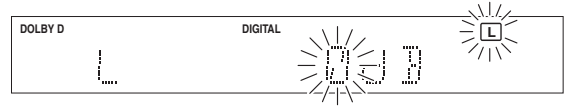
① **PLIIx MOVIE** :PRO LOGIC IIxサラウンド MOVIEモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
② **PLIIx MUSIC** :PRO LOGIC IIxサラウンド MUSICモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
③ **PLIIx GAME** :PRO LOGIC IIxサラウンド GAMEモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
④ **PLII MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
⑤ **PLII MUSIC** :PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
⑥ **PLII GAME** :PRO LOGIC IIサラウンド GAMEモード。(DOLBY PL II表示が点灯)
⑦ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。(DOLBY PL表示が点灯)
⑧ **CINEMA** :NEO:6サラウンドシネマモード。(NEO:6表示が点灯)
⑨ **MUSIC** :NEO:6サラウンドMUSICモード。(NEO:6表示が点灯)
⑩ **ARENA** :DSPサラウンド ARENAモード。(DSP表示が点灯)
⑪ **JAZZ CLUB** :DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。(DSP表示が点灯)
⑫ **THEATER** :DSPサラウンド THEATERモード。(DSP表示が点灯)
⑬ **STADIUM** :DSPサラウンド STADIUMモード。(DSP表示が点灯)
⑭ **DISCO** :DSPサラウンド DISCOモード。(DSP表示が点灯)
⑮ **STEREO** :通常のステレオ再生。

- ドルビーデジタルやDTSやAAC信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在のスピーカー設定に合わされます。
- DSPモード選択は約5秒間表示されます。

3 音量を調節する。

ご注意
- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- Dialogue Normalization (Dial Norm)はドルビーデジタルの特徴で、自動的にサラウンドサウンド全体のレベルを一定に保ちます。

各チャンネルの音量を調整する

再生中に各チャンネルの音量を調整することができます。

❶ FRONTキーを押すと、フロントスピーカーLチャンネルのレベル設定表示になります。

❷ MULTI CONTROL▼/▲キー(またはTRIM▼/▲キー)を使って好みの音量に調整します。

❸ もう一度FRONTキーを押すと、フロントスピーカーRチャンネルのレベル設定表示になります。

❹ MULTI CONTROL▼/▲キー (またはTRIM▼/▲キー) を使って好みの音量に調整します。

❺ もう一度FRONTキーを押すと、セレクタ表示に戻ります。

- 各チャンネルともレベルは-10dBから+10dBの範囲で1dBずつ調整できます。
- 調整項目は約5秒間表示されます。
- センタースピーカーチャンネル、サブウーファースピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、それぞれ**CENTER, SW**キーを押します。
- サラウンドスピーカーチャンネルまたはサラウンドバックスピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、**REAR**キーを押します。**REAR**キーを押すたびに, 以下のように切り換わります。

① **LS** :サラウンドスピーカーLチャンネル
② **RS** :サラウンドスピーカーRチャンネル
③ **RB** :サラウンドバックスピーカーRチャンネル
④ **LB** :サラウンドバックスピーカーLチャンネル

- 6chアンプの設定で**BS/SW BS**を選んだときは、"RB"と"LB" は表示されず"BS"(サラウンドバックチャンネル)が表示されます。

主音声/副音声の切り換え（AAC信号のみ）

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送は、主音声/副音声を切り換えることができます。

❶ **SOUNDキーを押してサウンド設定モードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って“AAC AUDIO”を表示させ、もう一度SOUNDキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って音声を選ぶ。**

① MAIN ：主音声
② SUB ：副音声
③ MAIN/SUB ：主音声+副音声

- モノラルでない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。

❹ **SOUNDキーを押して確定する。**
- BSデジタルチューナー、BSデジタルチューナー内蔵テレビなど、接続機器のデジタル音声出力設定を "AAC" 信号出力に設定してください。
- デジタル音声の出力を "PCM" 信号に設定されていると、AACマルチチャンネル音声での再生はできません。
BSデジタルチューナーの音声の設定のしかたは、その機器の取扱説明書をご覧ください。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力を "AAC" 信号出力に設定しても、番組によってはアナログ音声しか出力されない場合もあります。アナログ音声出力も本機に接続することをおすすめします。

❺ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って“EXIT”を表示させ、SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

ミッドナイトモード（ドルビーデジタルとDTSモードのみ）

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルの映像ソフトであらかじめ指定されていろ部分（急に音量が大きくなるシーンなど）だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ **SOUNDキーを押してサウンド設定モードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って"NIGHT"を表示させ、もう一度SOUNDキーを押す。**
- DVD、VIDEO 1または VIDEO 2の入力で、サウンドモードがドルビーデジタルとDTSのときのみ選べます。

❸ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、ON/OFFを選ぶ。**

① NIGHT ON ：ミッドナイトモード ON
② NIGHT OFF ：ミッドナイトモード OFF

❹ **SOUNDキーを押して確定する。**
- 調整項目は約20秒間表示されます。
- ドルビーデジタルの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

❺ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って“EXIT”を表示させ、SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

PANORAMAモード（PRO LOGIC IIxとPRO LOGIC II のMUSICモードのみ）

PANORAMAモードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ **SOUNDキーを押してSOUNDモードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、“PANORAMA”を選ぶ。**

❸ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、ON/OFFを選ぶ。**

① ON ：PANORAMAモード ON
② OFF ：PANORAMAモード OFF

❹ **SOUNDキーを押して確定する。**

❺ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って“EXIT”を選ぶ。**

❻ **SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

DIMENSIONモード（PRO LOGIC IIxとPRO LOGIC II のMUSICモードのみ）

DIMENSIONモードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせてかえることができます。

❶ **SOUNDキーを押してSOUNDモードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、“DIMENSION”を選ぶ。**

❸ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、音場を前後に調節する。**

音場が前寄りになる

音場がニュートラルになる

音場が後ろ寄りになる

❹ **SOUNDキーを押して確定する。**

❺ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って“EXIT”を選ぶ。**

❻ **SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

CENTER WIDTHモード（PRO LOGIC IIxとPRO LOGIC II のMUSICモードのみ）

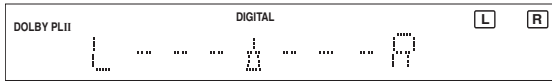
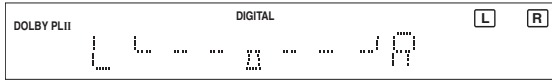
CENTER WIDTH設定モードを使ってセンターチャンネルの出力信号を左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

❶ **SOUNDキーを押してSOUNDモードにする。**

❷ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、"CENTER WIDTH"を選ぶ。**

- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❸ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って、左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- センター成分の再生方法を、センタースピーカーのみの再生からフロントスピーカーのみの再生の間で調節できます。

❹ **SOUNDキーを押して確定する。**

❺ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を使って"EXIT"を選ぶ。**

❻ **SOUNDキーを押して入力表示に戻す。**

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

❶ **SETUPキーを押し、"DIMMER"が表示されるまでMULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）を押す。**

❷ **SETUPキーを押し、お好みによりMULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）で"DIMMER H"または"DIMMER L"を選ぶ。**

① **DIMMER H：明るい**
② **DIMMER L：暗い**

❸ **SETUPキーを押し、"DIMMER"表示に戻す。**

❹ **MULTI CONTROL▼/▲キー（またはTRIM▼/▲キー）で"EXIT"を選び、SETUPキーを押す。**

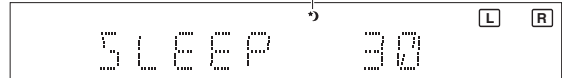
おやすみタイマー（SLEEP）

設定したタイマー時間が過ぎると、自動的に電源がオフ（スタンバイ）になります。10分単位で最長90分まで設定できます。

SLEEPキーを繰り返し押して、何分後に電源をオフ（スタンバイ）にするかを選ぶ。

- 一回押すごとに10分ずつ増えていきます。

10 → 20 → 30 ..... 70 → 80 → 90 → 解除 → 10 → 20 → .....

おやすみタイマー表示が点灯

- おやすみタイマー動作中に、**SLEEP**キーを押すと、残り時間の確認ができます。
- おやすみタイマーを解除するには、電源をオフ（スタンバイ）にするか、または**SLEEP**キーを繰り返し押して**SLEEP OFF**にします。

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- **FULL AUTO**（フルオート）入力モードでは、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **D. MANUAL**（デジタルマニュアル）入力（STEREO以外のモードが選ばれているとき）では、"FS 96kHz"が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
  LISTEN MODEまたは**STEREO**キーを押すとSTEREOモードに切り換わり、スピーカーから音が聞こえます。

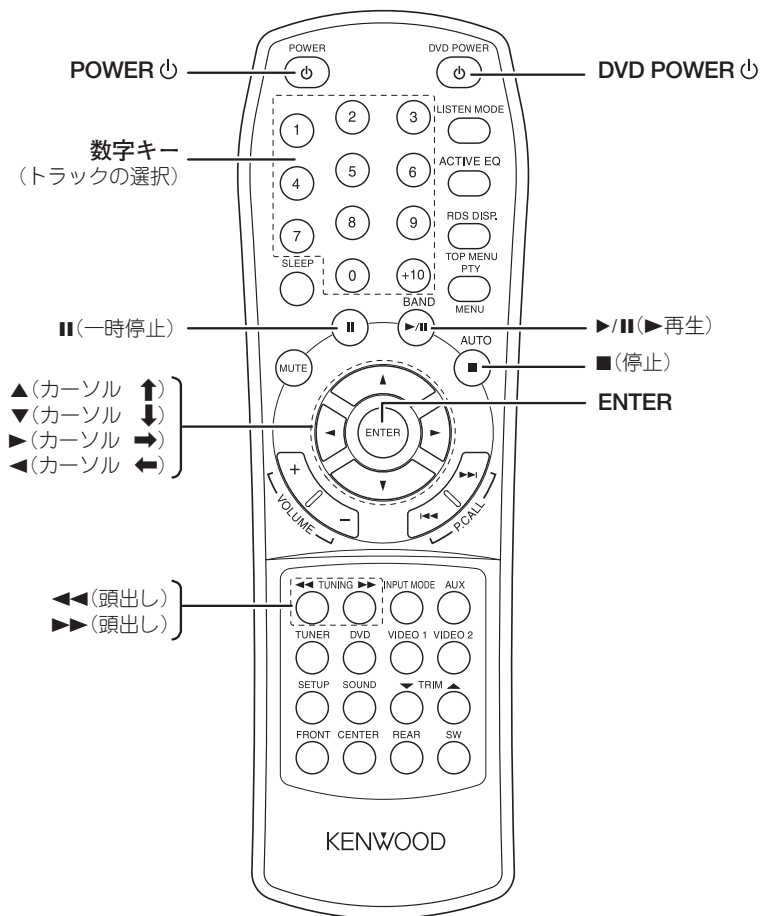
ケンウッドのDVDプレーヤーをリモコンで操作する

DVDプレーヤー操作キー

リモコンを使ったDVDプレーヤーの操作方法

1. DVDを操作するには、まず**DVD** キーを押し、それから操作方法マニュアルに従って、それぞれの機能を動作するためボタンを押します。
2. ”**DVD POWER** ⏻”キーを押すことによって、DVDプレーヤーの電源オン/オフが切り替わります。

DVDプレーヤーの操作キー

上記の基本操作をするには、下の図に表記されているキー名をご参考ください。

故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

ON/STANDBY⏻キーを押して電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いたのち、ON/STANDBY⏻キーを押しながら、電源プラグをコンセントに差し込む。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTEがオンになっている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→ 16 ●適当な音量にする。 ●MUTEを解除にする。→ 24
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●主電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源を入れる。
いずれかのスピーカーから音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●スピーカーが正しく設定されていない。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→ 16 ●「スピーカーの設定をする」をみて正しく設定する。→ 20
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●スピーカーが正しく設定されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。	●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。→ 16 ●「スピーカーの設定をする」をみて正しく設定する。→ 20 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。→ 22
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。→ 12
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●**INPUT MODE**キーを押して、フルオートを選ぶ。→ 12
ビデオ入力からの録画ができない。	●コピープロテクトがかかっている。	●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。
BSデジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	●AAC信号が入力されていない。	●BSデジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
BSデジタル放送の音声切り換えができない。	●放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	●BSデジタルチューナー側で音声を切り換える。

チューナー部

症　状	原　因	処　置
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。→ 18 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。→ 26
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

リモコン操作

症　状	原　因	処　置
リモコンで操作できない。	●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとするDVDプレーヤーにディスクが入っていない。	●インプットセレクターキーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 → 19 ●再生しようとするDVDプレーヤーにディスクを入れる。

定格

オーディオ部

ステレオ モード

定格出力（20 Hz ～ 20 kHz、0.7%、6 Ω）
.... 40 W + 40 W

実用最大出力 .... 60 W + 60 W（JEITA、6 Ω）

サラウンド モード（1ch動作時）

最大出力
- FRONT .... 50 W + 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
- CENTER .... 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
- SURROUND .... 50 W + 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
- SURROUND BACK .... 50 W（1 kHz、0.7%、6 Ω）
- SUBWOOFER .... 50 W（60 Hz、0.7%、6 Ω）

実用最大出力
- FRONT .... 60 W + 60 W（1 kHz、10%、6 Ω）
- CENTER .... 60 W（1 kHz、10%、6 Ω）
- SURROUND .... 60 W + 60 W（1 kHz、10%、6 Ω）
- SURROUND BACK .... 60 W（1 kHz、10%、6 Ω）
- SUBWOOFER .... 60 W（60 Hz、10%、6 Ω）

全高調波歪率 .... 0.02%（1 kHz、30 W、6 Ω）

周波数特性
- DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX
  .... 10 Hz ～ 95 kHz, + 0 dB ～ -3 dB

SN比
- DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX .... 95 dB (JEITA)

入力端子（感度/インピーダンス）
- DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX .... 350 mV / 47 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）
- VIDEO 1 .... 350 mV / 1 kΩ
- PRE OUT（SUBWOOFER/SURROUND BACK） .... 1 V / 1k Ω

トーン コントロール特性
- BASS .... ±10 dB（100 Hz）
- TREBLE .... ±10 dB（10 kHz）

デジタル部

対応サンプリング周波数 .... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz

入力端子（感度／インピーダンス／波長）
- オプチカル .... （ー15 dBm～ー24 dBm）660 nm ±30 nm
- コアキシャル .... 0.5 Vp-p／75 Ω

ビデオ部

入力端子／出力端子（感度／インピーダンス）
- VIDEO（コンポジット） .... 1 Vp-p / 75 Ω

S VIDEO（感度/インピーダンス）
- S VIDEO（Y-信号） .... 1 Vp-p / 75 Ω
- S VIDEO（C-信号） .... 0.286 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76 MHz ～ 90 MHz

アンテナインピーダンス .... 75 Ω不平衡

実用感度（モノラル） .... 1.6 μV (75 Ω) 15.2 dBf
（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）

高調波ひずみ率（1 kHz）
- モノラル .... 0.5 %
- ステレオ .... 0.7 %

SN比
- モノラル .... 74 dB（65.2 dBf 入力時）
- ステレオ .... 67 dB（65.2 dBf 入力時）

実効選択度（±400 kHz） .... 50 dB

ステレオセパレーション（1 kHz） .... 36 dB

周波数特性（30 Hz～15 kHz） .... + 0.5 dB ～ -3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 .... 531 kHz ～ 1,602 kHz

実用感度（30%mod.、S/N 20 dB） .... 18 μV (600 μV/m)

SN比（30%mod.、1 mV 入力時）
- モノラル .... 48 dB

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） .... 170 W

最大外形寸法 .... 幅 : 440 mm
高さ : 70 mm
奥行 : 360 mm

重量（正味） .... 7.8 kg

ご注意
1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保証とアフターサービス(よくお読みください)

保証書(別途添付)
製品には保証書が(別途)添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

補修用性能部品の保有期間
当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は
「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理/持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み
(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)
- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話(　　　　)　　　　-

ケンウッド サービス網

2004年2月現在

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎(011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスステーション	〒020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎(019) 646-2311
関東・甲信越			
埼玉サービスセンター	〒331-0812	さいたま市北区宮原1-311-1 加茂宮ビル1F	☎(048) 664-3611
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
東京サービスセンター	〒169-0073	新宿区百人町2-16-15(MYビル1F)	☎(03) 3363-1650
神奈川サービスセンター	〒228-0012	座間市広野台2-8-21	☎(046) 256-9681
静岡サービスステーション	〒420-0816	静岡市沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
新潟サービスステーション	〒950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	☎(025) 287-7736
中部			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
金沢サービスステーション	〒920-0036	金沢市元菊町21-87	☎(076) 265-5045
松本サービスステーション	〒390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎(0263) 26-7331
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスステーション	〒760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	〒890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスステーション	〒901-2132	浦添市伊祖1-5-2	☎(098) 874-9010
カスタマーサポートセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 933-5133 FAX (045) 933-5553
カスタマーサポートセンター大阪	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8085 FAX (06) 6394-8308

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前10時から午後6時まで
- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前9時から午後6時まで

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください）

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

カスタマーサポートセンター　電話（045）933-5133　FAX（045）933-5553　〒226-8525横浜市緑区白山 1-16-2

カスタマーサポートセンター大阪　電話（06）6394-8085　FAX（06）6394-8308　〒532-0034大阪市淀川区野中北 2-1-22

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、
最寄りのサービス窓口にご相談ください。